



2013

The
3rd
year

- 4 / 鹿沼の彫刻屋台などを手がける「彫工嘉門」の黒崎氏
- 5 / 山車の巡行をスムーズに行えるよう、昇降装置を開発しました(6月)
- 6 / オリオンACぶらざ前で昇降装置のデモを行いました(11月)



2012

- 3 / 宇都宮二荒山神社の旧鳥居を拝領、山車復元の部材としました(6月)



2014

The
4th
year

- 7 / 心柱へ火焰太鼓や龍の彫物などの仮組を行いました(6月)
- 8 / 2・3階部分の塗装の指示と作業のため、輪島へ搬入しました(6月)
- 9 / 平成25年度文化庁補助事業で修復した部分を清明館に展示(7月)(宇都宮市教育委員会提供)
- 10 / 文星芸術大学と東京藝術大学の共同研究として菊飾りの修復作業が行われました



江戸期の祭礼絵巻



市内旧家に伝わる弘化4(1847)年の菊水祭の様子を伝える絵巻です。所有者のご厚意で、山車復活プロジェクトが撮影を行いました。39 祭礼町による 81 もの出し物(51 台の山車屋台と 16 の芸屋台、仮装行列その他)が描かれています。

写真上 / はっきりと描かれた火焰太鼓山車。左に見える黒い屋根は新石町で弘化4年以前に建造、明治14年に益子へ譲渡された「内町彫刻屋台」。

写真下 / 人が押して巡行する益子「内町彫刻屋台」。今回は70人の曳き手が益子から参加する予定です。



明治42(1909)年撮影の火焰太鼓山車(宇都宮市教育委員会提供)

新石町の火焰太鼓山車が、100年ぶりに復活! 今年の菊水祭で80年ぶりに山車屋台巡行を行います。さらに、益子「内町彫刻屋台」と祖母井西町「日の出鶴山車」が里帰りして対面します。益子「内町彫刻屋台」は133年ぶりの里帰りとなります。

300年以上続く、宇都宮二荒山神社例祭(秋山祭)の付け祭り「菊水祭」。江戸時代には、各町内で競い合うように山車や屋台が巡行し、北関東最大の祭りであったと伝えられています。しかし本格的な巡行は昭和9年が最後となりました。その後、多くの山車屋台が宇都宮空襲により焼失してしまいました。

新石町の火焰太鼓山車は、その高さや大きさで、宮つ子の心意気を示す代表的な山車の一つでしたが、巡行に加わった記録は大正2(1913)年が最後で、その後戦争

を経て所在さえ分からなくなっていました。昭和55(1980)年、取り壊しが予定されていた市内の蔵から、山車の一部(火焰太鼓、木彫りの龍など)が発見され、その後市の施設で展示されていましたが、これをまちおこしに活用しようという機運が高まり、平成23(2011)年7月に「宮のにぎわい 山車復活プロジェクト」(榎山幸雄会長)が発足、菊水祭での巡行をめざして復元することとなりました。

それから約4年、メンバーの努力や周囲の支援により、募金活動では1200万円が

宇都宮二荒山神社「菊水祭」(10月25・26日)で、江戸期のにぎわいを。

新石町の「火焰太鼓山車」

100年ぶりの復活!



今回復元される火焰太鼓山車の姿(CG画像)

4年間の歩み

プロジェクト発足から修復までの歩みを写真でご紹介します。



- 1 / 復元に先立って行われた現状調査(6月)
- 2 / 伝統文化フェスティバル(11月)などに出品、市民に理解を広めます

2011

合同巡行スケジュール

- 10月25日(土) 午前10時～ 益子「内町彫刻屋台」公開組立(二荒山神社バンプ市民広場)
- 10月26日(日) 午前11時25分～ 山車屋台巡行復活式典(二荒山神社バンプ市民広場)
- 午後1時～ 山車屋台合同巡行(二荒山神社～大通り～伝馬町)

※雨天の場合、巡行中止。式典はオリオン通り曲師町イベント広場で開催。

参加山車屋台:
益子「内町彫刻屋台」、祖母井「西町日の出鶴山車」
宇都宮市内「本郷町神功皇后山車」「板戸町辻お囃子会彫刻屋台」
「新清流五段囃子花屋台」「小松流新囃子花屋台」

集まり、行政の補助金等も得て、ついに夢が実現する時を迎えました。

今回は、復元した火焰太鼓山車に加えて、江戸から明治期にかけてともに巡行し、その後他市へ譲渡された二つの山車や、市内の山車屋台なども参加し、江戸期の隆盛をうかがわせる巡行になる予定です。

中でも明治14年に新石町から譲渡されて以来133年ぶりの里帰りとなる益子「内町彫刻屋台」は、プロジェクトスタッフが解説しながら、バンバ市民広場で公開組立を行います(10月25日)。また祖母井西町「日の出鶴山車」は、宇都宮市大町で江戸後期に建造されたものです。10月26日の合同巡行では、大町の人も曳き手に加わり100年ぶりの旧交が温められます。

同プロジェクトの藤原宏史修復部会長は「ようやくここまで来たか、という感慨があります。修復もまだやるべきところがあり、今回は中間地点だと思っています。これを新たな出発点として、今後もがんばっていききたいと思います」と話しています。

山車・屋台が一堂に会して巡行する様子は、まさに江戸期の華麗を目の当たりにする心持ちでしょう。皆さんもぜひ、ご覧になってください。

問合せ

宮のにぎわい
山車復活プロジェクト事務局
〒320-0035
宇都宮市伝馬町4-5 うさぎや内
☎028-634-6810